



2024 年 1 月 31 日
カツヤマキカイ株式会社

「神戸アリーナプロジェクト」
カツヤマキカイ株式会社が「オフィシャルパートナー」の契約を締結

1946 年に創業し 神戸へ本社および製造拠点を移転して 10 年を迎えた、独創性豊かなエンジニアリング商社のカツヤマキカイ株式会社（住所：兵庫県神戸市、代表取締役社長 木村 吾郎）は、株式会社 One Bright KOBE（住所：兵庫県神戸市、代表取締役社長 渋谷 順）と「神戸アリーナプロジェクト」の協創パートナーシッププログラム「オフィシャルパートナー」の契約を締結しましたことをお知らせいたします。

●「オフィシャルパートナー」の取り組みについて

「神戸アリーナプロジェクト」は「この世界の心拍数を、上げていく。」を存在意義とし、神戸市と事業連携協定（*1）に伴い、アリーナを基点に様々なパートナー企業・団体の皆様と協創しながら地域活性化への貢献と社会課題解決型アリーナの創出を目指しています。カツヤマキカイは「運ぶ。動かす。0 を 1 にする知恵で現場を笑顔に。」をパーパスに掲げる「グローバル・エンジニアリング商社」です。

機械卸売商社機能と産業運搬機器のオリジナル製品を創発するメーカー機能が融合したユニークな特色をもち、1 社でマルチに対応できる唯一無二の企業として神戸を拠点に『Move & Challenge』（未来への考動）を目指しています。

このたび神戸アリーナプロジェクトが掲げるアリーナ基点でのまちづくり・新たな価値協創の構想に深く賛同し、「オフィシャルパートナー」の契約を締結いたしました。



×



●カツヤマキカイ 代表取締役社長 木村 吾郎様 コメント

『神戸から誇れる技術を世界へ』の強い思いで、第三創世記の舞台をここ神戸に立ち上げました。神戸アリーナが開業する 2025 年には、当社も創業 80 期の節目を迎えます。

「神戸アリーナプロジェクト」と共に、創業の精神であります『真実一路、確実なる前進』を更にグローバルに実践し、「モノづくり」に加え、新たな「コト」を生み出す企業として神戸と共に成長したいと考えています。当社経営の志となるパーパスの実現を通じて、社内外に共感と調和の輪を広げ、社会・地域に貢献できるよう真摯に取り組んで参ります。

●One Bright KOBE 代表取締役社長 渋谷 順 コメント

「神戸アリーナプロジェクト」が掲げるビジョンにご理解とご賛同をいただき、「オフィシャルパートナー」として一緒できますこと大変嬉しく思います。神戸アリーナは、50 年という長期にわたり神戸に根差し、神戸のまちづくりにまで思いを馳せて事業運営に取り組んで参ります。地元企業であるカツヤマキカイ様との協創は非常に意味があると感じるとともに、神戸空港島に立地することも含め、グローバルな展開においても一緒できることを楽しみにしております。これから新たな神戸の魅力づくりを共に創造していくことに期待しております。

<会社概要>

名称	カツヤマキカイ株式会社
代表	代表取締役社長 木村 吾郎
所在地	兵庫県神戸市中央区神戸空港 3 番地 12
事業内容	機械器具・工具の卸販売並びに産業運搬機器の設計・開発、製造、販売、リース及び付帯サービス
公式 HP	https://www.katsuyama.co.jp/

名称	株式会社 One Bright KOBE
代表	代表取締役社長 渋谷 順
所在地	兵庫県神戸市中央区浪花町 56 起業プラザひょうご内
主要株主	株式会社スマートバリュー、株式会社 NTT ドコモ
公式 HP	https://www.kobearena.jp/

参考資料

(※1) 神戸市との事業連携協定について

神戸市と株式会社 One Bright KOBE の親会社である株式会社スマートバリュー（本社：大阪市中心部、取締役兼代表執行役社長 渋谷 順）が「都心・ウォーターフロントエリアの未来づくり」に向けた事業連携協定を締結しています。本協定により、アリーナを基点とした三宮・ウォーターフロントエリアの回遊性向上や、デジタルイノベーションの社会実装により、テクノロジーを活用した産官学共創に取り組み、港都神戸を象徴する都心・ウォーターフロントエリアのさらなる活性化の実現を目指しています。

【参考】神戸アリーナプロジェクトの「協創パートナーシッププログラム」について

神戸アリーナプロジェクトは、神戸市と株式会社 One Bright KOBE の親会社である株式会社スマートバリュー（本社：大阪市中心部、取締役兼代表執行役社長 渋谷 順）が「都心・ウォーターフロントエリアの未来づくり」に向けた事業連携協定を締結に伴い、アリーナ基点でまちづくりを行う民設民営のプロジェクトです。1万人収容のアリーナ館内にはVIPラウンジを兼ね備え、新たな観戦体験の提供を行うと共に、複数のテナント・飲食店の出店や周辺エリアの整備により、日常的ににぎわいが生まれる地域活性化への貢献と、社会課題解決型アリーナの創出を目指しています。